

山梨青年

YMCA NEWS

年間聖句：何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。
一ペトロの手紙Ⅰ 4章8節



2023年10月25日発行
公益財団法人山梨YMCA
〒400-0032
甲府市中央3-10-7
Tel.055-235-8543
fax055-235-8553
www.yamanashiyymca.org
発行人 / 中田純子
編集人 / 風間奈月



山梨YMCA 史料展示室について

松村 禎夫



山梨YMCAグローバルコミュニティセンター本館北側の旧倉庫をリフォームした「みずがきの家」が開設されたことをご存じでしょうか。

山梨YMCAでは、1947年の創

立以来、『荒野に水わきいで（山梨YMCA四十年史）』をはじめ、いくつかの記念誌およびハイY(*)活動の一環である夏のワークキャンプに関する小冊子『ワークキャンプに出会ってから』や『お父さん、お母さんが高校生だった時』などが発行されました。

この「みずがきの家」一階の史料展示室には、これらの本の原資料やワイズメンズクラブ、ボーイスカウト関係など、山梨YMCAに関係する団体の各種資料も展示されています。さらに故大澤英二前理事長から遺贈された沢山の記念品や各種資料も保存されています。（*：高校学内のYMCAクラブ）

ある歴史学者が「歴史的真実は二重構造になっている。第一の段階では事実が問題となり、第二の段階では、解釈が問題となる」と言っています。このことを踏まえて、事実・史料を掘り起こし、それを学び研修して次世代に活かすことに意義があるのではと、理事会及び常議員会で考えました。その結果、山梨YMCAの歩みをたどる諸資料を一か所に集めて整理・展示できる史料展示室を開設し、山梨YMCAに関わるスタッフをはじめ山梨YMCA会員、ユースボランティアたちに研修の場を提供していくことになりました。

これに関連して、昨年の「大澤英二 召天二周年記念講演の集い2022」でYMCA史学会の斎藤實理事長に講演して戴きました。その際、史料室を造るなら、戦後ハイY王国と言われた山梨YMCAの場合、ハイY活動に関する史料を主要ポイントにして展示することを助言されました。

かつてのハイY活動の軌跡は、今日の山梨YMCA活動に深い示唆を与えて来たと言えるでしょう。特に、敗戦の傷跡癒えない1950年から約20年間にわたり、県下の高校生やその卒業生たちがみずがき山の麓に建設中だった孤児施設「天使園」に集まり、夏の一週間、寝泊まりして行ったワークキャンプの経験とそこで深められた人との繋がりが、その後の山梨YMCA活動の大きな原動力となって来ました。

このようなワークキャンプのメッカの地「みずがき山麓」に由来して、旧倉庫をリニューアルした建屋を「みずがきの家」と命名いたしました。来たる11月には、皆さまにお披露目して、この「史料展示室」が、YMCAに関係する皆さまの集いの場、憩いの場としても活用されることを願っています。

秋の深まりを感じる10月、強い日差しからようやく爽やかな風を感じ味覚溢れる匂いにほっと一息といったところです。この頃になると必ず、詩集「速さの違う時計」を思い出します。野菜や、果物、花々、木の枝、最後には人間の自分を見つめ、それぞれの時間を詠っている奥深さを感じる1冊です。地球の全てのものが自分という存在を与えられ、その時を生きる「命」を時計に例えている詩集は、非日常のように思える反面、日常に引き戻され心を揺さぶられる作品です。彼だからこそこの視点で、ひっそり咲く花、動かない枯れ木などを表現し、視角、聴覚、味覚、臭覚、触覚まで使っているかのような不思議な感覚になるのです。事故で手足の自由を失い、カタツムリみたいな時間の感覚を持つ自分という作者が、同じ速さのはずの時計を早さが違うと言っているのです。

私たちひとりひとは自分の「時」を刻むことに加え、豊かに輝く命を与えられました。自分に与えられたありのままの姿に自信を持ち、今生きている自分を全力で応援することが出来たら素敵です。それには、等身大の自分を知り、みんな違うことに気付き、物の豊かさに勝る、心の豊かさを大切にすることを忘れないでほしいと思います。

秋の夜長、自分の時計の秒針に耳を傾け、どんなものに例えられるか、探してみたいはかがでしょうか？

私は全ての人の「時」に寄り添えるように、その場で色（時）を変化させることが出来る、カメレオンみたいな時間の感覚を持ちたいと願います。

サステナキャンプ2

開催に至るまで

サステナキャンプは2023年の春、「Y's×SDGs Youth Action」というYMCAとワイズメンズクラブが協働して取り組む事業の一環として誕生したキャンプです。初回のサステナキャンプでは、廃油キャンドル作りや竜門峡チャレンジハイク、ほうとうづくりなどのアクティビティーを通して、私たちの生活が環境に与えるダメージについて考えることができました。そして2回目のサステナキャンプでは、マレーシアから日本へ来ている留学生をゲストとしてお

迎えすることで、世界の文化や食べ物を知り、あそびなどを体験するグローバルなキャンプを目指しました。

留学生のエコリーダーとの出会いは、2023年6月に甲府の地で開催された第26回ワイズメンズクラブ東日本区大会のユースアワーにありました。この大会では、ユースアクションの活動報告をする山梨YMCAのユースリーダーと、第24回アジア賞作文コンテストで優秀賞を獲られたエコリーダーが、交流できる場を頂戴しました。そこでサステナキャンプや山梨YMCAという存在がみつき、ユースリーダー同士がつながることによって2回目の開催に至りました。そしてキャンプを行うことを通して社会が一步でもよくなっていくことを信じています。



サステナキャンプ2を終えて

春に続くサステナキャンプの第2弾は、100周年を迎えた東京YMCA山中湖センターで行われました。今回は一泊二日の限られた時間の中で、サステナブル、すなわち持続可能な開発を考えることをテーマに、主に三つのプログラムを行いました。一つ目は、燃料を使わずに湖を渡る手段ということで12人乗りのビッグカヌー。二つ目は、世界の国の人と手をつなぐ意味で、今回は信州大学の留学生でマレーシア人の陳さんを招いての異文化交流タイム。そして三つ目として、電気

ガスを使わずに薪で作るマレーシア料理、ナシゴレンとABCスープを味わいました。9月も後半に入ると、ようやく涼しくなりましたが、今年の夏の暑さは本当に厳しいものでした。朝夕のつどいでは、とどまることを知らない地球温暖化のことや、戦争や災害の絶えない世界中の国々の現状について考えました。閉村式の子どもたちの立派な感想を聞いて、私たちの未来も捨てたもんじゃないな、という気にさせられました。



サステナキャンブはこれからの地球を担う子どもたちのために、毎回、海外からのゲストを招いて、一緒に平和な未来に想いを馳せるキャンブです。できればこの調子で、この企画を毎年、春と夏にシリーズ化させていこう、と考えています。ぜひ今回参加してくれた子どもたちには継続して参加して欲しいです。そして、一人でも多くの新しい仲間に出会いたいです。このことが、将来、本当に世界平和とSDGs～持続可能な開発を実現してくれる子どもたちが増えることを祈っています。

山梨YMCAキャンプディレクター 露木 淳司



お芋ほり

10月1日運動会の振り替え休日になり、多くの子どもたちが朝から利用しました。北杜市にあるYMCAの畑にさつま芋が収穫出来ると知り、プライム、甲府市児童クラブ、キッズパラダイス、きらきら教室合同で収穫体験に出かけました。ツルを引っ張ると中から大きなムカデや幼虫など色々な虫たちに出会い、最初は怖がっていた子ども達も恐る恐る触ってみたり観察したり、貴重な体験を沢山経験しました。さつま芋のツルを引っ張ても『あれ?』なかなか抜けません。さつま芋との戦いが始まりました。さつま芋を傷つけないように回りを掘り、時には隣のお友達と協力しながら掘り進めると。大きなさつま芋を沢山収穫することが出来ました！ 収穫したさつま芋を大切に持っている姿が印象的でした。

『食』についても子供たちの中で口に入るまでには様々な過程があり、太陽の恵みや、自然の大切さ、様々な人たちが係わる事を知り食べ物大切さを理解できたようでした。

この日のおやつはもちろん『さつま芋』自分達で収穫したさつま芋はとっても美味しく頂きました。



山梨YMCAホームページリニューアルしました！

2020年5月に新館に移転してから3年が経ちました。日々変化していく中で子どもたちも成長しながらYMCAに元気に「ただいま～」と帰ってきて放課後を過ごし、「おはよう～」と長期休業を過ごしています。そして、「迎えに来たよ～」とお家の方が来た時の子どもたちの変わらない笑顔があります。そんな学童の申し込みは「ホームページを見て」という方が多くいらっしゃいます。そのホームページも旧会館の写真が多く使われており、移転ができていない状態でした。

10月にホームページのリニューアルが決まり準備を進めてきました。ワイズメンズクラブの小澤智之さんのお力を借り、株式会社バズさんという会社を紹介して頂きました。デザインやコンセプトをしっかりと組み込んだ新しいホームページをぜひご覧ください。

山梨YMCAチャリティーバザー

山梨YMCA



第63回 山梨YMCA チャリティーバザー 63th YAMANASHI YMCA BAZAAR



■日時 2023年11月3日 (金・祝) 9:30~13:00

■会場 山梨YMCA (山梨県甲府市中央3-10-7) 雨天決行

バザーの収益金は、障がい児支援事業や高齢者介護予防事業、地域貢献事業及び国際協力事業などYMCAの実施しているチャリティー事業運営に役立てられます。

駐車場のご案内



バザー当日は、遊技会館と末日聖徒イエス・キリスト教会の駐車場をご利用ください。地域の皆様のご協力によりお借りする駐車場です。バザー開催時間以外の駐車は絶対になさらないようにお願いします。駐車場内でのトラブルは責任を負いかねますのでご了承ください。

御寄付者 2023年9・10月

石塚 誠	佐伯 光司	愛宕町教会
石原 靖子	清藤 和子	(株) 甲斐物産商会
板村 哲也	高野 照子	甲府ワイズメット会
井上ひろ美	高野孫左衛門	匿名者9名
大塚 茂	野中 正文	(敬称略)
大和田浩二	野々垣健五	
兼重珪亜子	水上 烈	
鎌田 巖	宮川 優子	
神谷 尚孝	山脇 由子	
黒田 順子	山岡かとり	皆様の善意に
小林喜美子	横山善宏	感謝いたします
齊藤 洋子		

表紙の写真から



11月11日 (土) 11時~13時半
大澤英二召天3周年記念講演会
「みずがきの家」史料展示室ご披露会
が開催されます!

銀河鉄道の森プロジェクト始動！

山梨 YMCA にて 2023 年度に始動する新事業企画「銀河鉄道の森プロジェクト」について、理事・常議員を対象とした現地見学会、およびユースボランティアによるワークキャンプを実施しました。（7月17日・9月16日）

○見学会（7月17日）

9時40分頃現地到着し、中田、福田より現地の説明と銀河鉄道の森プロジェクトの概要、ワークキャンプについて等の説明を行なった後、丘の山道を歩きました。歩道用の足場を作る作業中であったため、一部の方は途中で下り、車で頂上のキャンプサイト予定地へ移動。その他の方々でキャンプサイト予定地まで歩きました。途中で、森の中に奉られた祠や、ご先祖の墓地を經由（あえてそこを通るように遊歩道整備を千田さんがデザインして下さっています。子ども達にもこの土地やそこに住んだ方々の魂に想像力を働かせ、敬意を示せるようにとの思いを込めて。）したり、竹林を眺めながら「こんなアクティビティが作れそう！」などのアイデアも参加者の中から出されながら、ゆっくり20分ほどで頂上のキャンプサイトへ到着。まだ草がうっそうと茂っているものの、この土地の利用について中田から構想をご説明し、ご近所（元の土地所有者のご親族）とも関係が良好であること、将来的に隣接する畑も入手できれば農業体験や就労支援事業などの事業を展開したいという希望が語られました。ちょうど中央線の電車が通り、「銀河鉄道の森」と名付けられた所以も（昼間でしたが！）ご説明することができました。その後同じルートで下りた後、車で敷地の外周を周り、土地の全体像を資料に基づきながらご覧いただきました。11時過ぎに現地発、その後解散。



○第1回ワークキャンプ（7月17日）

7時30分YMCAに集合し、現地へ出発。清走中やグローバルフェスタ（甲府やまなみY's共催）に参加した青洲高校の生徒さんや、甲府21Y'sのユース事業担当水越さんが急遽参加して下さることになり、合計6名のボランティアが集まりました。自然の姿を大切にしながらの「木の手入れ」を生業とされる千田さん、昔ながらの土木技術と環境に考慮した造園業を営んで



おられる國分さんのお二人のご指導のもと、2班に分かれて山道の整備を行いました。作業の前には、千田さんによる里山の成り立ちや、水や植生との関係についてのミニレクチャーもあり、ただ単に道を作る労働だけではないワークとなりました。作業中も、土の中に水分を保てるよう工夫しながらの階段づくりや、菌の働き、水の動き、動物の動き（けもの道など）などについても実際に手を動かしながら、土を触りながら説明をしていただき、一つ一つの作業に意味があることを学びながら行いました。ユースの働きは本

当に素晴らしく、説明を受けたそばからテキパキと作業を進め、「ハンマーちょうだい！」「てみに枯葉入れて！」などなど声を掛け合いながらどんどん道が出来上がり、夕方にはなんとか頂上までのルートが出来上がりました。机上で学ぶ以上の五感を使った学びを与えられ、汗と泥まみれになりながらも目に見えて森が姿を変えていく様子を目の当たりにしたことで、最後の分かち合いの時間には「やりがいを感じました。」というユースの感想の声が聞かれ、彼ら彼女らの中に目に見えない大切な種がまかれたことを感じたワークキャンプ第1回となりました。



森を歩いてキャンプサイトへ



千田さんお手製の
スーパーブランコに大盛り上がり！

○第2回ワークキャンプ (9月16日)



ユースは7時20分Y M C Aに集合し、バスにて現地へ出発。今回は7名のユースが集まり、うち初参加は4名でした。今回はグローバルフェスタ(甲府やまなみY's共催)に参加した高校生たちがその後の夏のキャンプでボランティアをしてくれ、友達を誘ってワークキャンプにも参加してくれるなど、少しずつボランティアの輪が広がっていることを感じます。

8:30から作業を開始。今回も千田さん、國分さんによるミニレクチャーで始まりました。里山保全を念頭においた山の整備の技術として、「水とどう付き合うか」や、枝の切り方、伐採した木の枝を置く「ボサ置き」の作法」などなど、山仕事の基本のキを教えていただき、いよいよ2班に分かれて作業開始。道具の使い方、仕事の段取り、実際の作業・・・ひとつひとつが身体を

使って学ぶワークばかりです。はじめは恐る恐るだったのこぎりや杭打ちなど、おっかなびっくりの作業に「体幹を使って杭を打つよ。」などなどアドバイスを頂きながら作業を進めました。2回目の参加者は慣れた手つきでどんどん進めています。とても頼もしい姿でした。お昼は、おいしいお弁当を頂き、午後からの仕事は竹藪の整備をしました。「傘をさして歩けるくらいの幅を開ける」など、昔ながらの山の仕事を垣間見させていただきながらの作業です。皆汗びっしょりになりながらも、黙々と作業を続け、終わるころには、朝とは顔つきがまるで違って見えるユース達でした。ご指導にあたって下さった千田さん、國分さんお二人をはじめ、応援に駆けつけて下さった野々垣理事長や松村理事他みなさんとの交流を深めつつ、回を重ねるごとにきれいになっていく森に今回も大きなやりがいを感じたユース達でした。



○参加者ユース感想

・前回作業したところを見比べてみて、改めて自然の力強さを感じる事が出来ました。刈った木から芽が出ていたり敷いた葉が土に馴染んでいたりと、変化を直接感じる事が出来てとても楽しかったです。井戸の水に触れることが出来たり、何十年も前の土壁や倉や籠を見ることが出来たこともとても良い経験になりました。1番上まで道が通じたことで達成感を感じると共に、次は何を作れるのかととてもワクワクしています！ 青洲高校3年 渡邊結乃

・前回に引き続き2回目の参加となりましたが、1回目以上の情報量の学びを得ることができました。竹などの剪定を行っていき、景観が良くなっていくことが目に見えて分かりました。その光景を見ることができて嬉しかったです。沢山の方々の協力があり、自分達の力も発揮することができて非常にありがたく思っています。これから先のことが改めて楽しみになってきました！

英和大学3年 渡邊結菜



2023年(令和5年)10月12日 木曜日

韮崎にキャンプ場整備

山梨YMCA 子ども活動の場に

山梨YMCA(甲府市中央3丁目)野々垣理事長は、韮崎市内にキャンプ場を整備している。子どもたちの野外活動場所として活用する予定で、年内にも利用を始め、将来的には敷地内の一部を農地として整備し、障害がある子どもたちの就労支援にも取り組む考え。

キャンプ場の整備は、YMCAが2022年度に文部科学省の「子供の体験活動推進宣言」に参加したことがきっかけ。これまでは民間の施設を借りて野外活動をしてきたが、定期的に活動できるようにするため、新たに整備することにした。

8月に韮崎市中田町中条の1・3杉の用地を取得した。用地は七里岩沿いにあり、キャンプ場のほか、遊具や広場も設ける予定。具体的な整備プランはボランティアが検討し、北杜市の林業従事者のアドバイスを受けながら森林の伐採や道づくりをしている。

将来的には敷地内の一部を農地として整備し、就労支援施設を設けることも検討している。施設整備に向け、韮崎市に相談するなどして具体化を目指す。

YMCAは、子どもたちの育成や、ボランティアメンバーのリーダーシップを磨くなど、キャンプ場を幅広く活用していきたい」と話している。

キャンプ場の整備に向けて作業するボランティア
— 韮崎市中田町中条

（三枝大樹）